

記事内容

- ☆ 2011 春季生活闘争
- ☆ 2011 新春のつどい
- ☆ 第17回統一地方選挙
- ☆ 災害ボランティア雪かたし
- ☆ 幸せさがし文化展/2月の行動日程
- ☆ あけぼのビル

～労働条件交渉と政策制度要求を「両輪」に
すべての労働者の雇用と生活の安定を実現しよう!～

2011春季生活闘争方針

連合埼玉は1月7日に開いた第2回執行委員会で「2011春季生活闘争方針」を確認した。基本的な考え方は、連合第59回中央委員会で決定された方針に基づき「すべての労働者の処遇改善」に向けた2年目の闘いと位置付けた。より社会性を追求した運動を展開して、労働者への配分の歪みを是正し、個人消費の喚起につなげるなど、経済の活性化によりデフレ脱却をはかっていくことが必要である。そのためにも、すべての労働者の生活を維持・向上させるために、成果の適正な配分を迫り、労働条件の復元・格差是正に向けた取り組みを強力に展開する。

2011春闘を取り巻く日本経済の状況は、一昨年のリーマンショックに端を発した世界同時不況による、大きな落ち込み

から徐々に回復してきていたが、ここに来てエコカー補助金やエコポイントなどの政策が終了した反動により、急激に需要が減少し、景気は足踏み状態となっている。また、円高の進行や長期化、海外経済の減速懸念など先行き不透明感が強まっており、国内物価の下落が続くなど依然としてデフレ経済下にある。そうした中、労働者の雇用・生活は一段と厳しさを増し、生活防衛を余儀なくされている。

失業率も5%超と高止まり、特に新卒・若年者の雇用の状況は厳しく、今春の新卒採用も過去最悪になることが懸念されている。配分のバランスも崩れ、所得格差の二極化が進行しており、今の日本にとって経済・雇用対策は待ったなしの状況となっている。

◆◆春季生活闘争スケジュール◆◆

- 第1次行動 **2011春闘開始宣言街宣**
2/15 18:00～ 大宮駅東口
春闘開始宣言および集中労働相談開催
2/16～22 集中労働相談パンフレット配布 各地協内駅頭
- 第2次行動 **ミニマム賃金周知行動**
3/7～11 ミニマム賃金のチラシ配布 各地協内駅頭
ミニマム賃金アピール街宣
3/8 18:00～ 大宮駅東口
- 第3次行動 **ミニマム要請行動**
3/22～25 埼玉県経営者協会・経営諸団体
3/28～4/1 各商工会などへの要請行動 各地協
- 第4次行動 **中小解決促進宣言行動(連合埼玉主催・ブロック毎)**
北部 3/24 18:00～ 熊谷駅北口 東部 3/25 18:00～ 南越谷駅南口
西部 3/29 18:00～ 所沢駅西口 南部 3/30 18:00～ 大宮駅東口

1. 2011春季生活闘争 重点取り組み項目

1)重点取り組み

2011春闘では、労働条件の復元・格差是正の観点から、配分のゆがみの是正、労働条件の低下を阻止する。そのためには、職場で働くすべての勤労者を対象とした処遇の維持改善と、賃金水準の維持に取り組む。また、県内勤労者の底上げに向けて、組織の役割として、企業内最低賃金の締結と金額向上に取り組む、中小や未組織にも反映できる環境づくりを行う。

2)すべての組織で取り組む項目

- ①賃金カーブ維持分を確保する。また賃金制度が未整備な組合は、1歳・1年間差の社会的水準である5000円以上の要求を行い、賃金水準の維持をはかる。
- ②賃金カーブや実態賃金が埼玉県ミニマム賃金を下回る場合は、中長期計画を策定し賃金の底上げをはかる。
- ③県内労働者の賃金底上げをはかるため、企業内最低賃金の締結を進める。同時に水準を高めることで未組織を含むすべての労働者へ波及させる。
- ④同じ職場で働いている非正規やパート労働者などすべての労働者を対象に賃金改善を求める。時間給の引き上げ目安を、絶対額で1000円程度とし、引き上げ額目安を職務内容や人材活用の仕組みが正規労働者に近い働き方をしているパート労働者に対しては40円(定昇込)、補助的パートの場合は20円を目安と格差是正、待遇改善をはかっていく。
- ⑤賃金以外の労働条件でも積極的な改善の取り組みを進める。

3)連合埼玉の取り組み

～労働条件交渉と政策制度要求を「両輪」に
すべての労働者の雇用と生活の安定を実現しよう!～
をスローガンとし以下の取り組みを中心に行う。

- ①街宣行動や経営団体への要請を中心に、中小や未組織にも波及できるように世論喚起行動を地域協議会とともに展開する。
- ②構成組織の交渉支援として、県内の経済情勢解説などを含めた春季生活闘争パワーアップセミナーを開催する。
- ③埼玉県ミニマム賃金を幅広くPRすることで、賃金の底上げと格差是正の運動につなげていく。

2. 具体的な活動予定

1)2011春季生活闘争パワーアップセミナーの開催

日時:2011年1月29日(土)および2月6日(日)
場所:あけぼのビル5F会議室
内容:連合埼玉春闘方針、連合白書、経労委報告
学習会
県内の経済情勢について、賃金実態調査の報告など

2)世論喚起街宣行動

①1次行動 春闘開始宣言

日時:2月15日(火)18:00～
場所:大宮駅頭
参加者:労働政策委員会・事務局

②2次行動 ミニマム賃金アピール

日時:3月8日(火)18:00～
場所:大宮駅頭
参加者:連合埼玉執行部

③4次行動 中小労組支援アピール

日時:①3月24日(木)、②25日(金)、③29日(火)、
④30日(水) ※すべて18:00～
場所:①熊谷、②南越谷、③所沢、④大宮各駅頭
参加者:連合埼玉事務局、各ブロック担当執行部、
各ブロック地域協議会

3)各地域協議会駅頭行動

①1次行動 一斉労働相談アピールおよび春闘開始報告

日時:2月16日(水)～22日(火)
場所:県内各駅頭
参加者:各地域協議会

②2次行動 ミニマム賃金アピール

日時:3月7日(月)～11日(金)
場所:県内各駅頭
参加者:各地域協議会

4)賃金底上げミニマム要請行動

①3次行動経営諸団体への要請行動(連合埼玉)

日時:3月22日(火)～25日(金)
要請先:埼玉県経営者協会、経営三団体
参加者:労働政策委員長、事務局

②3次行動商工会などへの要請行動(地域協議会)

日時:3月28日(月)～4月1日(金)
要請先:各地域商工会議所など
参加者:地域協議会三役など

2011新春のつどい



1月7日(金)さいたま市ときわ会館において、来賓・構成組織・地域協議会・執行部350名の参加者のもと、2011新春のつどいを開催した。

はじめに連合埼玉を代表し、宮本重雄会長から要旨以下の挨拶が述べられた。「今年の連合埼玉のキーワードは『復元』である。1点目は労働条件の復元。2011春闘は、すべての労働者の処遇改善に向けた2年目の闘いと位置づけ、より社会性を追求した運動を展開する。2点目は、組合力の復元。第三者機関として経営チェックが行える企業内カウンターパートとしての機能と、非正規労働者を含めたすべての労働者との連帯、NPOや市民団体との連携でネットワークを広げ、労働組合が本来果たすべき社会貢献の機能を強化する。3点目は、政治の復元。初めて政権を取ったのだから試行錯誤があるのは当然、問題は錯誤を認識し修正する能力があるかどうか。また失敗から得るものも多いはず。連合は最大の支援団体として、苦言は呈すが全力で民主党政権を支える。そのためにも第17回統一地方選挙は、推薦候補全員の必勝に向け19万組合員の総力で取り組む」との挨拶がされた。

続いて、埼玉県を代表して上田清司知事をはじめ、労働福祉事業団を代表して埼玉県労働者福祉協議会より吉沢邦雄理事長代行、埼玉労働局より荻谷秀信労働局長、社団法人埼玉県経営者協会より利根忠博会長、政党関係として民主党埼玉県連の国会議員皆さんと社民党埼玉県連合副代表の佐藤征治郎県議会議員を紹介し、代表して民主党埼玉県連代表代行の山根隆司参議院議員より、順次連帯と激励の挨拶をいただいた。

引き続き、内田三四郎副会長の発声により乾杯し、第17回統一地方選挙連合埼玉推薦候補者85名の紹介を行うなか、短時間ではあったものの参加者はそれぞれの近況や決意など語り合いながら歓談した。

恒例のお楽しみ抽選会を行った後、関口信之輔副会長の閉会あいさつにより新春のつどいは終了した。



連合埼玉を代表し挨拶をする宮本重雄会長



上田清司 埼玉県知事



吉沢邦雄 中央労働金庫埼玉県本部 本部長



清水勇人 さいたま市長



荻谷秀信 埼玉労働局長



利根忠博 埼玉県経営者協会会長



山根隆治 民主党埼玉県連代表代行・参議院議員



“ヨイショ”の掛け声で鏡割り



左から細川律夫衆議院議員(現厚生労働大臣)、上田知事、枝野幸男衆議院議員(現内閣官房長官)



会長賞ゲット!!

第17回統一地方選挙

組織内候補者

埼玉県議会議員

さいたま市岩槻区 南12区



佐藤征治郎 71才
(建設埼玉)

上尾市 南13区



畠山 稔 61才
(JAM埼玉)

美里町・神川町・上里町 北3区



丸山 眞司 68才
(電機連合)

熊谷市 北6区



田並 尚明 45才
(JP労組)

越谷市 東9区



山本 正乃 51才
(自治労)

さいたま市議会議員

さいたま市大宮区



松本 敏雄 63才
(JR総連)

さいたま市中央区



高柳 俊哉 48才
(埼玉教組)

さいたま市緑区



神崎 功 55才
(UIゼンセン同盟)

さいたま市岩槻区



野呂多美子 64才
(自治労)

市町村議会議員

川越市



石川 智明 51才
(自動車総連)

川越市



片野 広隆 35才
(UIゼンセン同盟)

熊谷市



黒澤三千夫 47才
(電力総連)

熊谷市



松本貢市郎 55才
(電機連合)

東松山市



関口 武雄 51才
(JAM埼玉)

狭山市



内藤 光雄 46才
(自動車総連)

羽生市



蜂須 直巳 62才
(電機連合)

鴻巣市



中島 清 65才
(JP労組)

越谷市



玉生 芳明 59才
(自治労)

■埼玉県

選挙区	候補者名	年齢
南1区	草加市	山川百合子 41
南3区	西区	信賀 信孝 33
南4区	北区	高木 真理 43
南5区	大宮区	藤井 健志 35
南6区	見沼区	井上 将勝 31
南8区	桜区	田島 剛 32
南9区	浦和区	浅野日義英 52
南10区	南区	木村 勇夫 43
南11区	緑区	松岡 耕一 34
南12区	岩槻区	佐藤征治郎 71
南13区	上尾市	畠山 稔 61
南15区	北本市	平尾 良雄 58
南19区	蕨市	福田 秀雄 63
南20区	戸田市	中島 浩一 49
西1区	所沢市	水村 篤弘 36 末吉美帆子 53
西2区	入間市	新井 格 47
西5区	旧上福岡市	谷 新一 52
西8区	川越市	矢部 節 68
西9区	日高市	川田 虎男 30
北3区	美里町・神川町・上里町	丸山 真司 68
北5区	深谷市・寄居町	江原久美子 40
北6区	熊谷市	田並 尚明 45
東3区	旧加須市	恩田 博 66
東6区	蓮田市	山口 真司 54
東7区	旧菖蒲町・宮代町・白岡町	岡 重夫 57
東8区	旧春日部市	渋田 智秀 45
東9区	越谷市	山本 正乃 51 細川 威 33

■市町村

選挙区	候補者名	年齢
さいたま市	西区	池田 麻里 35
	北区	小川 寿士 46
		伊藤 仕 28
	大宮区	松本 敏雄 63
		熊谷 裕人 48
		西山 幸代 51
	見沼区	三神 尊志 30
		武田 和浩 49
	中央区	高柳 俊哉 48
		山田ちづ子 61
	桜区	阪本 克己 51
		岡 成樹 46
	浦和区	原田 健太 43
		小柳 嘉文 45
	南区	丹羽 宝宏 30
		浜口 健司 40
	緑区	神崎 功 55
		石田 昌生 50
	岩槻区	高野 秀樹 50
		野呂多美子 64

■市町村

選挙区	候補者名	年齢
川越市	石川 智明 51	
	片野 広隆 35	
	高橋 剛 48	
	山木 綾子 59	
	山根 史子 26	
熊谷市	黒澤三千夫 47	
	松本貢市郎 55	
所沢市	赤川 洋二 50	
	石本 亮三 42	
	入澤 豊 40	
	島田 一隆 33	
	飛田和秀治 40	
	福田 悟郎 34	
加須市	小林 信雄 59	
	野中 芳子 56	
	齋藤 和雄 52	
東松山市	関口 武雄 51	
狭山市	内藤 光雄 46	
羽生市	蜂須 直巳 62	
鴻巣市	中島 清 65	
	長嶋 元種 69	
越谷市	大石美恵子 58	
	玉生 芳明 59	
和光市	菅原 満 52	
北本市	高橋 節子 66	
	井上 慶子 53	
鶴ヶ島市	高橋 剣二 38	
ふじみ野市	民部 佳代 45	
	五十嵐正明 71	
	遠藤 昇 43	
滑川町	上野 廣 63	
川島町	爲水 順二 39	
吉見町	柳谷 泉 36	
鳩山町	日坂 和久 52	
横瀬町	藤澤 治美 72	
白岡町	石原 富子 59	

=組織内候補者

雪の壁と格闘の二日間

連合埼玉災害ボランティア救援隊 第16回研修会「雪かたし」

1月22日・23日の二日間に亘り、連合埼玉災害ボランティア救援隊第16回研修会「雪かたし」が開催されました。参加者は総勢37名、福島県大沼郡金山町(奥会津)の本名地区と沼沢地区が研修会場でした。

金山町のリーフレットには「妖精の里・かねやま」森と湖、尾瀬を源とする只見川の清流、大自然とふれ合える町と紹介をされています。しかし、これらは初夏から秋にかけての話であり、災ボラのメンバーが訪れた二日間は積雪2~3メートルの豪雪地帯、目にするものは雪の壁、「雪かたし」を行うには十分過ぎる光景でした。

雪かたしの作業は、二日間で延べ4時間程度、8世帯しか行えませんでしたが、シャツ一枚で雪のちらつく中で汗びっしょりとなり、疲れた身体で作業を続けているメンバーの姿を見ると感動さえ覚えました。一人暮らしの高齢者の方々の役に立ちたいとのメンバーの思いが頑張りに繋がったものと確信しています。

作業を終えて、お年寄りの人から「ありがとう、助かりました」と、訛りのある言葉でお礼を言われた時には参加して本当に良かったと強く感じました。

また、金山町の長谷川町長や地域の方々との懇談の中でも考えさせられる事が沢山ありましたので一部を紹介します。

金山町は、65歳以上の方が町民の57%に達し福島県で最も

高齢者の多い町である。(沼沢地区に限定すると、国内でも2番か3番目だそうです)16歳以下は町民の6%ほどで、高齢者の一人暮らし世帯が年々増える傾向にあるそうです。

また、町には診療所が一つしかなく大きな病院までは車で一時間半ほど、沼沢地区においては食品を取り扱う商店も無く、週に一回(食品によっては二週に一回)の車による移動販売を利用しているとの事でした。

宿泊先となった沼沢湖山荘は廃校となった小学校を利用した施設であり、災害ボランティア研修の宿泊施設としては適切な選択だと思える反面、過疎の進んだ地域の様相を深く感じ寂しさを覚えました。

最後に、今回の研修は私にとって、とても貴重な経験であり、人のために汗を流せたことに喜びを感じました。決して楽な作業ではありませんが、一人でも多くの皆さんに疲労の中にも充実感と達成感の持てる体験をしていただきたいと思います。



連合埼玉災害ボランティア救援隊
運営委員長
金井 浩



あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◇連合がめざす社会像「働くことを軸とする安心社会」

連合は従来のビジョンであった「労働を中心とした福祉型社会」をより分かりやすく、体系的なものとして継承、発展させていくために、改めてめざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」の実現を掲げた。「働くことを軸とする安心社会」とは、働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、それを相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活力あふれる参加型の社会である。誰もがいつでも働く機会、参加の場を得ることができる、という安心が、人々の希望につながる社会の要となる。

私たちは多様なかたちで働きながら、他の人々と様々なかたちで結びつき、協力しながらモノをつくり、サービスを提供している。生活の糧を得るための雇用労働であっても、決められたルールのもとついたディーセントな(働きがいのある人間らしい)仕事であるならば、それ自体が私たちの自己実現の機会でもあり、働くことは生きがいにもなる。仕事に取り組む中で自らの資質が活かされ、能力を伸ばしていくことは、社会の発展に貢献することにつながる。人びとが就労し、健康で文化的な生活を送るに足る所得を得て、税金を負担し、社会保険料を支払うことは社会を支える根本を成すものである。

◇深刻な新規学卒者の雇用環境

今、日本の社会で、多くの人たちは様々な不安を抱えながら生きている。とりわけ若者たちは、これから安定した収入を得て家族を持つことができるのか、先が見えない不安と焦燥感にさいなまれている。新卒一括採用の仕組みのもとで、若者はある決められた時点、つまり高卒は18歳前後、大卒は22歳前後で、一生の仕事を決めることを求められ、就職時が不況で納得のいく仕事が見つからなかった若者は、正規採用されるチャンスを逃し、そのダメージを引きずる可能性が高くなる。就職した後に自分の仕事への向き不向きを知る若者も多く、雇用のミスマッチは大きな社会問題である。

1月18日、厚生労働省及び文部科学省は、平成22年度新規学校等卒業予定者の就職内定状況(12月1日現在)を発表した。新規大学卒業予定者の就職内定率は前年同期に比べ4.3ポイント減の68.8%と平成8年度の調査開始以来最

低の水準となるなど、新規学卒者の就職環境は非常に厳しいものとなっている。埼玉県の場合は更に深刻であり、埼玉労働局が県内大学と連携し新規大学卒業予定者の就職内定率を調査した結果(1月28日発表)、就職内定率は46.1%と全国を大きく下回った。このような状況を踏まえ、厚生労働省及び文部科学省は、1人でも多くの方が卒業までに就職が決定するよう、未内定者を対象に「卒業前の集中支援」に取り組むこととしている。

◇若者に夢と志を、そして雇用を

昨年10月25日には、埼玉労働局、公共職業安定所、関東経済産業局、埼玉県、大学、事業主、連合埼玉の代表者が一堂に会し、「新卒者就職応援本部第1回会議」を開催し、密接に連携した上で各種支援を実施していくことに合意した。連合埼玉は「新卒者就職応援本部第1回会議」の合意にもとづき、1月7日開催の第2回執行委員会において、今後労働局が開催する就職面接会について、就職未内定者を家族に持つ組合員に積極的に周知していくことを確認した。更に5月には労働局と合同で就職面接会を開催する予定である。開催にあたっては、連合埼玉加盟組合から企業に対し、更なる求人の掘り起こしを依頼し、今春卒業の大学生等をはじめ卒業後3年以内の既卒者を1人でも多く就職へとつなげていきたい。

10年ほど前の就職氷河期では、正社員の採用が激減し、技術や知識の伝承など、人材育成に大きな影響を与えてしまった。同じ轍を踏まぬよう、構成組織・加盟組合及び経営者の理解と協力をお願いするものである。また、大手企業の求人に学生が殺到する一方で、人材不足を訴える中小企業も少なくない。埼玉県は中小企業がほとんどであり、技術で競争に勝ち抜いている中小企業も数多くある。学生の皆さんも今一度幅広い視野で就職活動に取り組んではどうか。このことは保護者にも同様に申し上げたい。

これからの日本社会には、年齢や性別を問わず、あるいは様々な障がいの有無にかかわらず、誰もが働き、つながることができる仕組みづくりが必要である。参加が保障される社会、誰もが排除されず、生き活きと働き、つながることができれば、理不尽な格差や貧困に足をとられることなく、社会は活力を増し、経済成長に必ずや結び付くものである。日本の将来を担う若者には夢と志を持ち続けてほしい。そのためにも連合埼玉は就職支援に全力で取り組む。